

年頭所感

病院の総合力を高める

近森会グループ 理事長 近森 正幸



● 社会不安 ●

米国のサブプライムローンに端を発した世界的な金融危機が、实体经济へ大きな影響を及ぼしています。日本においても自動車業界をはじめとする大企業において、派遣労働者の切り捨てが行なわれ、経済の急速な減速による社会不安、行政や政治に対する不信感の高まりなど、いま私たちを取り巻く社会状況はますます不透明感を増し、閉塞的状况を呈しています。

● 医療界の減速 ●

こうした实体经济の減速や漠然とした社会不安に加えて、医療の面では、後期高齢者医療制度のスタートに伴う高齢者医療費の自己負担の増加が、年金問題とも相まって患者さんの受診抑制を生んでおります。全国的に救急搬送数は低下しており、外来初診患者数の減少とともに、病床の稼働率低下となって現れてきており、病院運営をいっそう難しくしております。

理事長としてのこの四半世紀で、实体经济の減速が患者数の減少に結びついたことは初めての経験です。これまで景気には無関係であった医療にも大きな変動が起こっており、100年にいちどの大きな変化が、世界中を巻き込み、医療界を含めたさまざまな分野に多大な影響を与えています。

● スルーな連携を図り、病院の総合力を高める ●

いま、医療界においてはチーム医療で労働生産性を高め、人的、物的なコストを削減し、良質で効率的な医療を提供することが求められています。幸いにも近森会グループでは、リハビリテーションや栄養サポート、急性期チーム、褥瘡や口のリハビリをはじめとした多くのチーム医療が実践され

ており、質量ともに日本でも有数の病院グループであると誇りに思っています。これからも、医師、看護師、コメディカル、管理部門がスルーに連携することで、全体最適化を進め、病院の総合力を高めていかなければなりません。

近森会グループはご存知のように、急性期の近森病院、脳卒中や脊損対応の全館回復期リハビリ病棟の近森リハビリテーション病院、精神科急性期の第二分院、精神障害者の在宅サポートを行なっている高知メンタルリハビリテーションセンター、2007年10月15日にスタートした整形外科専門の近森オルソリハビリテーション病院、2008年4月に高知県から民間移譲を受けた障害者の社会復帰・就労支援センターである高知リハビリテーションセンターを擁し、地域医療にとって欠くことのできないシステムを構築しています。

● 医療人としての本道を ●

いま日本は迷走のただなかにあります。私たちは医療に携わる者として、患者さんを早く治して自宅に帰っていただくよう、努力してきました。良質で効率的な医療を提供することが、現在、そして未来にわたっての使命であると確信しております。混迷を深める時代だからこそ、医療人として本来あるべき医療を求め続けなければなりません。

平成21年の社会情勢は、さらに厳しさを増してくるものと思われまます。私たちがこの四半世紀にわたり培ってきた医療システムは、社会がどのような状況に陥っても自己変革を行なうことで、対応していける医療システムであると自負しています。

これからも病院らしい病院として職員全員が胸を張れる、そんな病院でありつづけたいと願っております。

● 1月の歳時記 ●



福寿草

文 訪問リハビリテーション
ちかもり

濱吉 佐和子

新年の花飾りのなかで、黄色い花びらがいくつも寄り添い可憐な花を咲かせている

のが福寿草です。

旧暦の正月に咲き出すことから、新年を祝う花として呼ばれ、「元日草」「正月花」の別名を持ちます。現在の暦では2月中旬にあたり、正月にみられるのは促成栽培されたものです。正月は暖かい屋内で、早春には徐々に寒さの和らいできた屋外で、小さな黄金色の花を咲かせ、私達の心を潤してくれるはずで



糖尿病 サポートチーム 活動軌道に



●毎月第二月曜日の夕方 17時
30分から開かれている糖尿病
サポート委員会のようす



糖尿病
内分泌代謝内科 科長

葛籠 幸栄

2008年5月スタート

当院に糖尿病サポートチームを2008年5月に立ちあげてから早いもので8カ月経過しました。

どんどん増え続ける糖尿病患者さんをなんとかサポートしていきたいという切実な思いから始めた試みでした。

手探りながら始めたいろいろなことですが、そういう私たちのもとに年2回ずつと行われてきている高知糖尿病チーム医療研修会より、当院での糖尿病患者さんへの関わりについての発表依頼がありました。

そこで、糖尿病サポートチームメンバーで副委員長も務める西村剛看護師長が、昨年10月27日にRKCホールにおいて発表を行ないました。

糖尿病教室や教育入院のこと

糖尿病教室や、教育入院、入院中の糖尿病患者さん(内科以外の他科に入院中の方も含めて)の回診など諸々の試みについての内容でしたが、他施設

の方々よりも励ましの声をいただき、大盛況に終わることができました。

今後ともこれらを励みに患者さんと共に歩んでいきたいと思っております。

フットケア認定施設

当院は救急外来を活発に受け入れている地域連携病院であるのは皆様の周知の通りですが、そういう患者さんの中にはここ最近のトピックスでもある糖尿病やメタボリック症候群の患者さんが多くおられます。

そういう経緯から当院の糖尿病患者さんは合併症を持った、治療管理が難しい患者さんが多くおられます。例を挙げれば、下腿の血流の悪さのために下腿潰瘍を起こし、壊死、切断をしなければいけない状況の方もおられます。

糖尿病内分泌科の発足、続いての糖尿病サポート委員会の設置も、少しでもそういった患者さんの手助けをしたいという願いからでした。それが紆余曲折を繰り返しながら今日の「フットケアの確立」にまで辿り着くことができました。今年3月に発足した褥瘡、

皮膚、創傷管理委員会とも協力体制が取れていることも「フットケアの確立」には大きな意義があると思っています。

そんな努力の甲斐もあってか、**2008年11月にフットケア認定施設**になりました。患者さん一人一人の足を観察し、色調不良の個所がないか、潰瘍はないか、^{イボ}疣、^{ひび}皸などないか、温泉浴から始まり、爪ぎりなどのきめ細やかなケアをしております。

認定施設になれたことは、フットケアが終わった後にありがとうと笑顔で言ってくれる患者さんの励ましと、周りの職員の方々のご尽力のおかげだと感謝しております。今後とも温かく見守っていただき、かつ引き続きのご理解ご協力を改めてお願いしたいと思います。

第9回

日本クリニカルパス学会 学術集会で発表

診療情報管理室
クリニカルパス委員会事務局
鍵本 由紀(左端)

2008年11月21日-22日 第9回日本クリニカルパス学会学術集会(以下パス学会)in埼玉で、「近隣競合病院との合同パス大会開催～事務局の立場から」の発表が行なわれた。

本番では一緒に学会参加した近森スタッフに見守られながらの発表でしたが、とても緊張したのを覚えています。あがり症で質問にもうまく答えられなかったのですが、それもとてもいい思い出です。発表後もフロア内、及び別セッション会場などで、他施設の方より声を掛けられたり、意見を頂戴したりと、合同パス大会への関心の高さが伺えました。

共同演者には、近森スタッフを始め高知赤十字病院のパス事務局さんも



真ん中は高知赤十字病院 クリニカルパス委員長 第一外科部長 浜口伸正先生、右端はクリニカルパス委員会事務局の医療情報管理課 四國(しこく)久幸課長

入っています。合同パス大会を開催したおかげですっかり仲良くなり、色々業務の相談にも乗っていただいております。

発表中の鍵本さん



ます。気軽に院外の方に相談できることが、こんなに心強いのかと実感する毎日です。

現在、合同大会は高知赤十字病院と開催していますが、今後はより多くの病院と出来ればと考えています。来年の秋には国立病院機構高知病院との合同大会も開催したいと思います。今後、色々な病院のスタッフと交流できるのがとても楽しみです。現在は学会誌への投稿をめざしています。最後になりましたが、私の学会発表を助けてくださった皆様、ありがとうございました。

日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会

感染管理部会のピアレビュー (同僚による評価)を受けて



近森会グループ 感染対策委員長
日本医療機能評価機構
認定病院患者安全推進協議会
感染管理部会 部会長

北村 龍彦

近森会グループのスタッフは医療の質向上と患者安全に果たす感染管理の重要性を理解し、実践しているところですが、高齢で複雑な病態を持ち、看護必要度の高い患者さんが増加し、HAI(医療関連感染)を引き起こす危険性が高まっています。

近森病院では、かつて米国の感染管理専門家(ICP)の他者評価による改善を実施しましたが、今回、日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会 感染管理部会メンバーによるピアレビュー(同僚による評価)を秋田社会保険病院に続いて受けました。

感染管理の専門家であるメンバー7名(看護師3名、薬剤師・検査技師各2名)が2008年11月28日に近森病院を訪問し、各職種の目線を通じて救急外来から集中治療棟、内科系・外科系病棟、手術室、細菌検査室、薬剤部を回り、評価していただきました。

メンバーから近森病院の感染管理の基盤整備の更なる向上のための提言とともに、病院内各部署で対応したスタッフの温かさや感染管理への真摯な姿勢を評価され、ピアレビュー実施者と受ける側の両者にとっても有益な1日でした。関係スタッフの皆様お疲れ様、そしてありがとうございました。

今後この経験を活かし、近森会グループの感染管理のさらなる改善に努めていきたいと考えています。



前列左より、由良温宣氏(東北労災病院)、藤田烈氏(名古屋医療センター)、鈴木隆氏(大崎市民病院)、北村龍彦(筆者)、浅利誠志氏(大阪大学)、新井裕子氏(伊勢崎市民病院)、家入裕子氏(済生会熊本病院)、藤田昌久氏(日本医科大学)。

後列左より、高橋美幸氏(事務局)、菅原浩幸氏(事務局/部長)、久保田聡美(総看護師長)、増田千恵(看護師長)、西岡成巳(看護師長)、筒井由佳(薬剤部長)、西内美奈(看護部主任)、近森幹子(看護師長)、矢野晶子(ICN)、東野栄三(看護師長)、安田幸美(看護師長)、中平律子(看護師長)

2008年度職員旅行

●屋久島へ (2008.11.16 ~ 19) その3



二日目、いよいよ本命の屋久杉へ向けて、いざ!!



上は大正時代に屋久杉の大株を紹介した米国の植物学者ウィルソン博士にちなみ命名されたウィルソン株を背景に。その株の中から見上げたのが左(撮影赤松順Dr)



●クロアチア (全2班)

1991年に連邦を構成していたユーゴスラヴィアから独立。左は最大の都市ザグレブの空港で、心臓血管外科医の懐かしい森田照正Drと娘さんの熱烈歓迎を受けた御一行。左の下は「アドリア海の真珠」と呼ばれる海洋都市ドヴロヴニクを囲む城壁の上で昔の大砲とともに。下はドヴロヴニクの街角。右下は青空市場のイチジク売り場(右側3枚の撮影は山本彰Dr)



リ●レ●ー
●エ●ッ●セ●イ

わがやの 家族たち



第二分院
作業療法室

澤田 麻奈美

わが家では、秋頃からたくさんの家族が増えました。というのも、私が夏祭りの金魚すくいで一匹もすくえなかったにもかかわらず、露店のおばちゃんに金魚をプレゼントしてもらったのがきっかけでした。

始めは100円の金魚鉢で簡単に飼うつもりでしたが、だんだんと欲ばってしまうものですねえ。結局、エアポンプやヒーターなどが付いた豪華な小型水槽を買うことになり、思わぬ出費となりました(苦笑)。今では金魚以外に、苔を食べてくれる細長いオレンジ色の魚や水草の根っこのお掃除好きなえび、そして軽やかに泳ぎまわるドジョウたちも仲間入りをしてにぎやかに暮らしています。

最近はこのような水槽をポーと



眺めていることが多く、よく幼い頃の私にタイムスリップをしています。魚たちが好きなように泳ぎまわったり、必死になって餌を食べている姿を見ているのがとても幸せで、あったかい気持ちになります。これからも家族たちとのんびりできるひとときを大切にしたいと思っています。

急に龍馬に逢いたくなって…

すこ ひろのぶ

昭和14年5月10日生まれ。

昭和41年3月 熊本大学医学部卒業。

平成7年9月 済生会熊本病院院長に就任。

専門分野は消化器内科。

所属学会

日本消化器内視鏡学会 評議員(認定指導医)

日本消化器がん検診学会 評議員(認定指導医)

日本消化器病学会 評議員(認定指導医)

その他

全国済生会病院長会 会長

全国公私病院連盟 副会長

日本病院会 常任理事

日本診療録管理学会 評議員

日本クリニカルパス学会 前理事長



済生会熊本病院 院長

須古 博信

近森先生、近森会の皆様こんにちは！

私と近森先生の交際は10年程前の岡田玲一郎先生のセミナーが始まります。共に演者として病院経営の話をしたと思いますが、私には先生の語り口と病床過密地区での近森会の活発な活動に感動しました。地域で必死になって頑張っておられるのに、その語り口はサラッとして、爽やかでした。私も自慢たらたら、誇張した話しぶりは大嫌いなので、大いに共感したことを覚えています。

先日も先生の話の拝聴する機会がありましたが、素晴らしい業績内容にもかかわらず、淡々と自分の経営理念を語っておられました。成功してもおごらない態度と理念に基づく病院経営に感銘致しました。

私が近森会を訪問したのは過去2回あります。初回の訪問目的は、急に坂本龍馬に会いたくなった時でした。その時の私は、精神的にもへこんでいた時だと思えます。病院訪問を快く引き受けていただき、その上、足摺岬、四万十川の蛸見物にもご案内をいただき、意気軒昂となって熊本に帰ったことを思い出します。

このとき教えていただいた連携誌のあり方、紹介率の上げ方、リハビリテーションのシステム作りは、当院の地域医療支援病院の認定に役立てることができ、感謝しています。

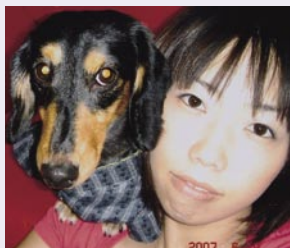
今後も健康には充分配慮され、理想の病院を目指して頑張ってくださいと思います。

新シリーズ●近森会グループが日頃お世話になっている県内外の方々から、エッセイを寄せていただくコーナーです。どんなお話が展開されますやら。読者の皆さまもぜひお楽しみください！(ひろのぶ編集室)

わたしのこの二枚 私の癒し 医事課 村戸 佳奈子

日本歯科大学新潟歯学部のヨット部で、マスコットだったミニチュアダックスフンドのインディーが、勉強が忙しくなった(?)を理由に弟がお世話を放棄したため、はるばる飛行機に乗って暖かい実家の室戸にやってきたのは、2年前のことです。

今では父が教えた色々な芸をやって、みんなを楽しませてくれています。甘えん坊で寂しがり屋さんですが、週末になると私の家に来て疲れを癒し優しい気持ちにしてくれるセラピー犬となっています。



乞熱烈応援

昇格しました。



近森リハビリテーション病院
言語療法科主任

青木 梨奈

近森会に就職社して8年目、月日が経つのは本当に速い。就職時に比べ、病床数も増加し、言語療法科の人員も

3倍以上に増員している。私自身も、この8年間で病棟、外来、訪問と、色々な患者さんやスタッフの方々に関わり、たくさんのことを経験させてもらった。

2008年12月から病棟への異動となり、それと同時に今回主任の辞令をいただいた。若いスタッフが多いなかで自分に何ができるのか、どうすれば上手く相手に伝わるのかなど…まだまだ模索している途中である。

指導的立場として、人として色々なことを話し、お互いを知りながら成長し合える環境にしていきたいと思う。

♪ プチ宣伝 ♪

第2回 高知赤十字病院・近森病院
合同パス大会
「急性冠症候群 (ACS) のパス」
2009年1月17日 (土)
9:00~12:00 コンフォートホテル

ケアのワンポイントアドバイス

義歯の取り扱い-ケア

近森病院 歯科衛生士 影山 香

義歯の不適合を防ぐ

私たち歯科衛生士が急性期での関わりで大切にしているのは、「患者さん一人一人に残された口腔の機能を守る」ということです。

口腔には「咀嚼」「嚥下」「発声」「呼吸」などの機能があります。機能維持のために口腔ケアが大切なことは前回までに述べてきました。その他にできることの一つとして、義歯の不適合を防ぐことが大切です。



口のなかの粘膜や、舌を清掃するためのブラシでご家庭でも使用可能。ブラシ自体が丸く毛で覆われ、ネックの部分がしなるため頬などへのストレッチ効果も期待できる

義歯は、大きく分けて総義歯(歯が1本もない場合)と部分義歯(1本でも歯が残っている場合)の2種類に分けられます。義歯は「義手」や「義足」と同じように、身体の失われた機能を回復させる装具の一つです。外している期間が長くなると、バネが合わなくなったり違和感が強くなります。



総義歯は粘膜で支えているため、急激な体重の減少でも合わなくなることがあります。この場合は一時的に義歯安定剤を使用しますが、清掃性の良い水溶性タイプが扱いやすくお勧めです。

義歯の取り扱いの注意点

注意点として、24時間義歯を装着していると歯肉の血行が悪くなり、却って不適合の原因になります。義歯に付いた細菌が誤嚥性肺炎の原因になる場合がありますので、夜間は外して義歯洗浄剤か水に浸しておきましょう。義歯は乾燥すると変形する性質があるので、口に入れていない時でも湿らせておくことが大切です。

たとえ口から食べられない状態であっても、義歯があれば粘膜の乾燥や唾液の誤嚥を防ぎ、舌の位置を安定させ、顎関節の拘縮を防ぎます。水に浸けられたままの義歯を見つけたら、昼間は装着しておくよう声を掛けるだけでも機能維持につながります。

改めて、歯科衛生士の役割

全身状態の不安定な患者さんが多く、在院日数の限られた急性期では、ゆっくり歯の治療をする時間はありません。そこで、歯科衛生士が専門的な視点で治療の緊急性を判断し、往診治療で最低限の応急処置を行います。他職種の方々のケアと併せて、歯科衛生士が専門的口腔ケアを行うことで、誤嚥性肺炎をはじめ様々な感染症の防止に努めています。

新シリーズ♥♥♥ 管理部長の

こだわり ヘルシー美食 2

先月よりヘルシー美食シリーズを少々始めさせていただいたが、体重に殆ど変化はない。むしろ12月のシーズンをこのような状態で乗り切ったのだからまずまずということかも知れない。飲食前半の野菜中心食がどうも具合が良い。早々と訪れる満腹感でその後の飲食過多を防いでくれるようである。疲れた胃にぴったりの



川添 昇

野菜スープ ミネストローネ風



〈作り方〉 画 臨床栄養部 科長 吉田 妃佐

①野菜を1センチ角ぐらいに刻んでおく。②ベーコンをカリカリになるくらい炒め、③にんにくのみじん切りを投入し、香りが出たら、④タマネギをよく炒め、ニンジン・セロリ・湯むきしたトマト(ザク切り)・キャベツ(3~5cm角)などを投入。かぼちゃ・じゃがいもは火が通りやすいので一番最後に、⑤白ワインとコンソメスープの素を入れて野菜が軟らかくなったら、⑥塩・コショウで味をととのえ、オリーブオイルを垂らして出来上り。

〈食べ方〉

※オリーブオイルは出来たら初摘み(ヌエボ)の新鮮なものがあれば嬉しい。熱々をフーフーしながら食べると、野菜の滋味が胃に染み渡るようである。そうそう残してあった冷えた白ワインを忘れるところであった。熱い、冷たい、このコンビネーションがいいなどと言いつつ、待てよ、トマト味なら安いキャンティの赤(イタリアのワイン)もいいのではと言いつつ、結局ヘルシーにならずに満足してしまうことになる。

第57回 地域医療講演会

「医薬品副作用の毒性的

アプローチ」— 肝炎、腎炎、 アナフィラキシーへの経験的対応 —

講師 鳥居薬品(株)常勤顧問・薬学博士
松本 一彦 先生 2009年1月30日 18:30-
会場 高知パレスホテル <参加費無料>

2008年11月15、16日に静岡県で開催

病棟での実践的な教育の必要性

3階東病棟 看護師 森本志保 (真ん中)

看護師長とスタッフの差

今回の学会では、「病棟看護師の実践する地域医療連携の現状と連携促進要因 - 看護師長とスタッフの比較 -」についてポスターによる発表を行いました。

看護師長とスタッフでは、実際の行なっている連携や認識に差があることが研究の結果からわかり、病院全体や実践の場において教育的な関わりをもつことの必要性について報告をしました。会場より「経験年数による影響」や「実際に教育的な関わりとしてどのようなことが必要か」などの質問があり、意見交換を行いました。

退院調整や連携に関わっているという意識を高める教育

急性期の一般病棟では、入院や退院・手術の件数も多く、毎日の業務も忙しいですが、急性期の治療を終えられた患者さんが、安心して早期に次の療養の場へと退院できるように退院調整を行なっています。



左は近森病院の久保田聡美総看護師長、右は高知女子大学の山田覚看護学部教授

その中で、看護師長は退院調整や地域との窓口になることが多くありますが、患者さんやご家族と最も関わることが多く、退院に向けて多職種と協働し調整を行うのはスタッフ看護師です。そのため一人ひとりの看護師が連携や退院調整に関わっている意識を高める教育や、病棟でのより実践的な教育が必要だと感じています。

患者さんやご家族が、その人らしい生活をする事ができ、安心して退院や転院ができるように、今後も頑張っていきたいと思います。

エイズキャンペーン講演会報告

～レッドリボンキャンペーンの一環として～

泌尿器科部長
谷村 正信



今年も世界中で世界エイズデーとして多彩な催しが行われました。2008年12月2日には、近森病院でのキャンペーンの一環として、小生が「STDとAIDS～大切な人を守るために～」という講演を行いました。

新規HIV感染者数が、2007年度には初めて1000名を超え、AIDS発症で見つかった新規感染者数(いきなりAIDS)と合わせると1500名に達しました。今年度は更に増えており、先進国の中で増加しているのは、今や日本だけです。

報告された感染者数は、実際の感染者の一部(氷山の一角)に過

ぎず、HIV感染は、今や一部の同性愛者や薬物中毒者の問題ではなく、ごく身近な問題となっています。注目すべき点は、地方および異性間の性的接触による感染者数の増加です。このことは、HIV感染対策にとって一番大事なセーフティ・セックス(セイファー・セックス)が、まだまだ行われていないことを物語っています。家族や恋人など、自分にとって大切な人を守るためには、HIV感染をよく知り、まずは身近な人への啓発を続けていくことが大事と考えます。お仕事疲れの中、聴講された皆さん、ご苦労様でした。



▲左から森本瞳さん、野口由美さん、岡千紘さん、梶原麻世さん

新医療安全シリーズ ①

笑顔のチカラ

近森病院医療安全担当看護師長 青木 千利

院内の廊下にスタッフの顔写真を掲げている部署がある。何かのイベントをきっかけに「全部署試してみてもいいね」と話題に上がりながら、いまだに数少ない。



とびきり素敵な笑顔は、つい立ち止まって眺めたくなる。その時は、こちらもそれなりの…いい顔? いえ少しは柔らかな表情になっていそうな気がする。

このチカラ、日常のケアに活かされていたらもっと素晴らしい。先日、コンフリクトマネジメントの研修参加に申し込みをしようと指折り数えて、その日を待った。受付開始30分で、定員オーバーでアウト。何が不足してこのような研修に人が集まらざるを得ないのか、廊下で笑顔のあなたに会うたび、すぐそばに答えがありそうに感じるのです。

STOP! エイズキャンペーン報告



健康管理センター 野口 由美

2008年の世界エイズデーのテーマはLiving Together～ちょっとの愛からはじまること～です。このサブテーマは「相手の立場になって考えてみよう、そしてHIV/エイズについて一人一人に関心を持ってもらいたい」そんな温かく優しい思いが込められています。

日本におけるHIV感染者・エイズ患者数は増加しており、年齢別では特に20・30代が多い傾向にあると言われていました。誰でもかかる可能性のある病気だからこそ、正しい知識と予防が大切です。今回も色々な職種のスタッフ

や外来にいられていた患者さんも参加してくれました。「私には関係ない」と言わないで、一人でも多くの方に関心を持ってもらう機会になればと思います。皆さん、ポスター・パネル展にお越しいたごき、ありがとうございました。

小笑いながらも…

近森リハ病院 理学療法士 中山 明日香

近森亭落語部を2007年初旬に立ち上げ(現在7名)、今回第三回目となる『近森亭落語会』を2008年10月26日(日)にリハ病院3階東病棟で開催させていただきました。ロールケーキが古典の『つる』を、ハピネスが『一日屋』を演じました。入院患者さんをはじめ、ご家族や病院スタッフなどたくさんの方に集まっていただき、極度の緊張の中(特に初高座のハ



ピネス)、無事に会を終えることができました。

今までは、お話の中で笑いをとることがなかなか難しかったのですが、今回は小笑いながらも皆さんに笑ってもらえて大変嬉しかったです☆少しずつではありますが、成長していけるように頑張りま

すので、今後とも近森亭の落語部をよろしく

お願い申し上げます!!

他の病棟にも積極的に伺いたいと思いますので、ご期待ください



恒例クリスマスコンサート開催

2008年12月13日(土)

主催 近森会グループコミュニケーション委員会

コミュニケーション委員 井上 典子



入院生活を余儀なくされている患者さんやご家族の方々に、少しでも楽しんでいただければと毎年「高知コーラス合奏団」の皆様に出演をお願いし開催しております。

美しい歌声を聴きながら一緒に歌っていただいたり、楽しいひと時を過ごしていただけたのではないかと思います。その反面、患者さんを十分に会場へお連れすることが出来なかったと思います。病棟スタッフからは、「寝たきりの患者さんも連れて行ってあげたいが難しい…放送とかで流してみたらどうでしょうか?」「自分達もその歌声で癒されたい…」と

いった貴重なご意見をいただきました。これを参考に来年のコンサートは尚よいものにしたいと思います。

追記:

高知コーラス合奏団は、2008年の高知県文化賞を受賞されました。受賞理由は、半世紀以上にわたり合唱を楽しみながら活動を続けてきたということでした。受賞おめでとうございます。

看護部 キラリと光る看護 その44

本当によくがんばって
くれました

看護部長 梶原 和歌



2008年にいちばん苦勞をかけた病棟は整形外科の3西病棟でした。理由は旧松田病院のスタッフを中心に開設した近森オルソリハビリテーション病院と急性期の人事交流を図るために5名の異動をしたこと、精神科からの異動希望1名と新採用2名を加えスタッフ3分の1がニューフェイスで、しかもその異動スタッフがつぎつぎと元の部署に戻ることや退職希望が出、欠員補充が途中採用の新人という最悪循環となったことでした。

この病棟は毎月平均して77名の入院と手術、84名の退院、平均在院日

数14日という多忙な背景でした。

ところで、退院時に患者さんからいろいろのお声をアンケートで戴いています。10月までは3西の感謝件数は平均5.7件でしたが、12月に開封した11月分では感謝の声70.5%のうち29%が3西のチーム医療へのメッセージでした。

スタッフによる働き甲斐は「痛みを訴え、動けない患者さんが目に見えて確実に良くなること、コミュニケーションがとりやすいこと」だと言います。育児休暇明けで復帰したナース、異動の壁を乗り越えたスタッフも、「プ

リセプターを中心に回りの人が自分の気づかないところで仕事の抜かりをカバーし、教えてくれ、あっさりして話しかけやすい」とのことでした。

斉藤尚子師長は「忙しいなかだからこそ明るく声かけしあって患者さんにやさしい一声を足していこう」を促していると言います。本当によくがんばってくれました。

患者さんスタッフ共に「師長さんが感じがよくて、対応が優しい」という声も印象的でした。病棟各々に特殊性があり師長カラーがあります。そのカラーが輝けるように工夫を…と省みている年末です。(2008.12.18記)

近森会グループ		
2008年	外来患者数	15,495人
	新入院患者数	738人
	退院患者数	704人
近森病院		
11月の診療数	平均在院日数	16.28日
	地域医療支援病院紹介率	92.15%
	救急車搬入件数	429件
	うち入院件数	223件
	手術件数	376件
	うち手術室実施	246件
	うち全身麻酔件数	150件

企画情報室

編集室通信

▼ある団体から派遣されて、指定のホテルに泊まることとなった。ところがこれがとんでもないホテルで、室面積は9m²で6畳弱。これに黄色く変色したユニットバスが入っているものだから、ベッドの他に家具はパイプ椅子が一つあるのみ。30センチ幅ぐらゐの棚に、テレビや電話機、ジャー、コップの類を置いてあるものだから、書類を上げるスペースもない。そしてロッカーもない。エモン掛けに衣類を吊るす始末である。何だか吉幾三の故郷みたいに、何も無い尽くしのホテルであった。極め付けは廊下の飲料水コーナー。フロントの人に聞くと、できるだけお部屋の水は飲まないで下さいというのだから開いた口が塞がらない。つらい思いをして外に出て入った居酒屋が隠岐島の食材を出す店だった。日本海の新鮮な魚介類にしばしの幸福に浸ったが、ホテルの部屋に戻ってまたガックリ。寒くて淋しい2連泊! だった。(かえる)

近森会グループ MVP 賞に輝く臨床検査部



近森理事長の右から順に右へ、弘松慶子、橘知佐、久保安由美、山本亜矢、門脇芽里、黒川真奈美

近森会グループ MVP 賞

に輝く第二分院パティオ
受賞は代表で岡村邦弘。メンバーは他に織田靖史、北川のみみ、川淵佐織



MVP 賞 個人賞

左から順に、田中宏親、中川以都香、近森理事長の右に鍵本由紀、続いて矢野晶子、中屋智(当日欠席は片岡真一、久保田聡美、近森幹子)



2008 忘年会と MVP 賞発表



近森会グループ MVP 賞に輝く DMAT チーム



近森理事長の右から順に、井原則之、上田英輝、竹内敦子、田中孝明、村田美和、松田陽平、山崎明美、北川知子、福井麻里子、竹崎智博(当日欠席は根岸正敏、西本陽央、宗石勘九郎、吉村美江、山本靖代) 以下全て敬称略※三木はここでは未着

近森会グループ MVP 賞に輝く ICLS,BLS 部門



左から順に川井和哉、和田道子、窪川渉一、近森理事長の右が松田陽平、浜田沙希、山本彰、三木俊史、町田清史(当日欠席は宗石勘九郎)



2008.12.10. ホテル日航高知旭ロイヤルにおいて570人の参加を得て盛大に、本年度も開かれました

図書室便り

《2008年11月受入分》

- ・ 専門医のための精神科臨床リュミエール6双極性障害/大森哲郎(責任編集)
- ・ わかりやすい骨髄病理診断学 吸引クロット、生検組織の見方/定平吉都(編集)
- ・ 消化管病理標本の読み方 改訂2版/中村真一(編集)
- ・ 注射薬調剤監査マニュアル 第3版/山口県病院薬剤師会、注射調剤特別委員会(編集)
- 《寄贈本》
- ・ 1からの経営学/加護野忠男(他編集)
- ・ 患者不満とリスクマネジメント 紛争の医療から共創の医療へ/前田泉
- 《別冊・増刊号》
- ・ 別冊 医学のあゆみ 難治性疼痛と闘う - 研究と治療の最前線/仙波恵美子(編集)
- ・ 泌尿器ケア 2008年 冬季増刊 12Lesson で完全マスター 尿失禁 & 女性泌尿器科疾患のケア/加藤久美子(監修)